



「沖縄戦の朗読を続ける女優」

『アローンシアター』谷 英美

沖縄戦で13歳の時に爆弾で顔に傷を負いその後過酷な人生を歩んできた女性をモデルにした作品「顔」の朗読公演が6月に沖縄で公演されました。

朗読したのは女優谷さん・金子みすゞひとり芝居を上演していた時、沖縄戦の集団自決を描いた「ウンジュよ」という作品に出会いました。それまで沖縄戦のことは知らなかった谷さんは「自分のように沖縄戦の事を知らない人は多いはず」と沖縄戦の朗読公演を続けていました。

2010年6月に丸木美術館で新垣文子さん（旧姓宮城83歳 越谷市在住）に会いその数奇な人生に感動し新垣さんと沖縄の地を取材し書き上げたのがこの作品『顔』です。それ以来埼玉を中心にこの作品の朗読公演を続けています。

谷さんは「沖縄生まれでもなく沖縄戦を語っていいのかと最初は躊躇した。でもどうしたら戦争をなくせるか、芝居を通して若い人たちが考えるきっかけになればいい」と朗読を続けています。

今回、沖縄の文化を伝える「カフェギャラリー南風・蔵の家」で開催することは、必然と運命の出会いに寄るものです。



旧海軍司令部壕を見学する新垣文子さんと谷英美さん
(2011年3月)

沖縄戦を生き抜いた女の半生 作・朗読「顔」谷 英美

戦後70年を考える～朗読公演会～

9月26日(土) 定員40名

♪ランチタイムは11時～13時半(沖縄料理)

14時～15時30分(13時半までに入場下さい)

★参加費 1500円(ケーキ&飲み物付き)

★朗読公演 14時～15時

★トークタイム(新垣さんをお交えながら)

15時～15時半<お茶とケーキ>

★懇親会 終了後、16時～出演者を囲んで開催

参加費 2500円 要予約 定員 25名

沖縄料理&韓国料理 ビール、泡盛、ワインなど

主催 カフェギャラリー南風(みなかぜ)・蔵の家

～裏面に琉球新報の記事と南風の地図、申込書～

『顔』より抜粋

——日本軍の兵隊さんは、ガマから民間人を追い出して自分たちが入って、私たちのことはガマに入れてくれませんでした。私が怪我したときも、ガマに入れなくて、弾をよけるために、母が近くにあった民家の布団を出してきて、みんなに被せました。「ここにいたらみんな死んでしまう」と、父が私の手を引っ張った途端に、飛んできた爆弾の破片が顔にあたってしまって……中略……顔の真ん中にザクロのような穴があいていて、こんな怪我をして生きていてよかったのかどうなのかわからなかった。でもねえ、自分で死ぬっていうのも、なかなかむつかしくて…。——



沖縄での朗読会の「新垣文子さんと谷英美さん」

